

## 平成26年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	文学研究科 (KUASU提供)	カテゴリー	社会科学総合科目 群	横断 区分	文理横断型		
授業科目名 (英訳)	戦争と植民地をめぐる歴史 認識問題(Toward a common historical understanding among Asian countries: Memories of the war and colonialism)		講義担当者 所属・氏名	文学研究科 永井和 文学研究科 平田昌司		開講 場所	文学研究科棟		
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講 期	後期	曜 時 限	木2限 (10:30-12:00)	授業 形態	講義・演習
〔授業の概要・目的〕									
東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。									
【研究科横断型教育の概要・目的】 文学研究科、人文科学研究所、経済学研究科の教員を中心に、現在日本、中国、韓国、北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている、過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また、これらの問題について学外の専門家をゲストに招いて話を聞きます。また、東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、研究科や専修の枠にとらわれずに受講してください。									
〔授業計画と内容〕									
学内の講義担当者は以下のとおりです。日程および学外ゲストについては後日掲示します。 永井和(文学研究科):慰安婦問題について 平田昌司(文学研究科):最近20年の中国における日本観アパルトヘイトと真実和解委員会 高嶋航(文学研究科):中朝韓の歴史論争問題 小山哲(文学研究科):ポーランド・ドイツ 記憶の場 水野直樹(人文科学研究所):植民地支配をめぐる日韓の歴史認識 石川禎浩(人文科学研究所):日中戦争をめぐる日中の歴史認識について 堀和生(経済学研究科):植民地工業化をめぐる日韓の歴史認識 押川文子(地域研究統合情報センター):ヒンドゥー・ナショナリズムと歴史認識問題									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
平常点(出席点)とレポートにより総合的に評価します。									
〔教科書〕									
使用しない									
〔参考書等〕									
授業中に紹介する									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									